栃木県における痴呆性高齢者グループホームの現状について

Research on the Present Condition of Group-Homes for the Elderly with Dementia in Tochigi Prefecture

六反田　千　恵
Chie Rokutanda
柊　崎　京　子
Kyoko Fukizaki
新　井　茂　光
Shigemitsu Arai

要約

本研究は、痴呆性高齢者グループホームの現状を把握することを目的に、栃木県を調査地域として質問紙調査を実施し、集計と考察を試みたものである。調査内容は、①概要、②設立経緯、③建築内容、④運営、⑤入居者の状況を把握するための基本項目類と、⑥入居者の生活の様子、⑦地域との関わり、⑧今後の課題についての自由記述項目である。各項目の分析を経て、入居者の生活状況と地域との交流状況について、日常的状況とイベント的状況に分け、相関関係を抽出した。結果、社会福祉法人はイベント的交流に積極的、NPO 法人・営利法人は日常的・自発的な交流に積極的、医療法人は交流については慎重であるというグループホーム運営主体の種別による傾向を示唆した。また、一方で、職員体制・受入の基準・地域との交流の契機や方法・入居者の要介護度の進行にともなうターミナルケアをどうするかなど多くの課題を抱えていることが分かった。

キーワード：痴呆性高齢者グループホーム、生活状況、地域交流、栃木県

住居学科　六反田千恵
社会福祉学専攻　柊崎　京子
非常勤講師　新井　茂光

目次

Ⅰ　はじめに
Ⅱ　調査方法について
Ⅲ　結果と考察
　1　概要
　2　設立経緯
　3　建築内容
　4　運営状況
　5　入居者の状況
　6　入居者の生活の様子
　7　地域との関わりと今後の課題
　8　日常生活における地域との交流状況
　9　行事を中心に見た地域との交流状況
Ⅳ　まとめ
Ⅴ　おわりに

Ⅰ　はじめに

介護保険制度の居宅サービス事業に痴呆性高齢者グループホーム（以下グループホームと略す）が組み入れられて5年が経過している。しかしながら、グループホームにおけるケア実践の蓄積は、少数の民間小規模施設での蓄積を除いて、国のモデル事業開始から10年にすぎない。小笠原が指摘するように、グループホームこそ痴呆高齢者介護の切り札としてセンセーショナルに紹介されたが、その根底にある痴呆高齢者への専門援助に関しては十分な蓄積と認識の広がりもなく、また痴呆高齢者ケアの実践とその科学的な分析、総括も十分でないままグループホームが登場してきた歴史があった[1]。グループホームの意義は、単に痴呆高齢者が小規模の居住施設で共同生活する場所ということではなく、そこで特別に訓練を受けたスタッフが痴呆病状の治療、回復、安定など専門的治療的援助を行う点にあるにも関わらず、日本では小規模が先行的に理解され、なぜ小規模に意味があるのかについての科学的な吟味が不十分なままであった、という。したがって介護保険が施行されて5年もたたないうちに、痴呆介護の切り札とされていたグループホームの運営やそのケアの質に疑問がもたれ、建設に規制がかかるといった県も出始めている。

本論では、なぜグループホームが必要なのか、なぜグループホームが痴呆高齢者ケアに適切なのかについて科学的な根拠を探るための基礎研究として、建設に規制がかかった県の一つである栃木県のグループホームを対象として、グループホームの全体像とその直面

する課題を明らかにすることを目的としている。

Ⅱ　調査方法について

栃木県を調査地域とし、痴呆性高齢者グループホームを調査対象とした。(以下、本論では「痴呆性高齢者グループホーム」を「GH」と省略表記する。)

2003 年 6 月現在運営状況にある GH39 件に郵送法による質問紙調査を実施した（同じ法人運営で同敷地内に建つ 3 件は、実質 3 ユニットからなる 1 施設と見なすのが適当であり、実際、代表して 1 件から回答があった。従って、実質的な調査対象施設数は 37 件)。回収率 51.4％（19 件)。調査期間は 2003 年 6 月～ 7 月である。

質問紙調査の内容は、①概要（開設主体、法人登記年度、開設年度)、②設立経緯、③建築内容、④運営（ユニット数、ユニット定員、職員体制、ボランティア)、⑤入居者の状況（年齢、性別、要介護度、平均入居期間、入居前の居住地）を把握するための基本項目類と、⑥入居者の生活の様子や⑦地域との関わりを把握するための項目類、⑧今後の課題についての自由記述項目によって構成した。

Ⅲ　結果と考察

1　概要

概要についての回答を　表 1 にまとめた。開設主体・運営主体の種別は、社会福祉法人（特別養護老人ホームと回答したものも含める）7 件（36.8％：全国 27.3％)、医療法人（病院と回答したものも含める）5 件（26.3％：全国 22.4％)、営利法人 6 件（31.6％：全国 42.8％)、NPO 法人 1 件（5.3％：全国 6.2％）の 5 種類であった。

2003 年時点の全国統計[2] に対してその構成比は、営利法人が約 1 割少なく、社会福祉法人が 1 割近く多い。医療法人と NPO 法人については、全国と比べても 5％以下の相違

表 1　調査対象GHの概要

調査番号	開設主体	運営主体	法人登記年度	事業開設年度	調査番号	開設主体	運営主体	法人登記年度	事業開設年度
1	社会福祉法人	社会福祉法人	1998.7	1999	12	社会福祉法人	社会福祉法人	1980.12	2003
2	社会福祉法人	特別養護老人ホーム	記入なし	2002	13	社会福祉法人	社会福祉法人	1994.1	2003
3	社会福祉法人	社会福祉法人	1995.11	2002	14	社会福祉法人	社会福祉法人	1985.3	2001
4	社会福祉法人	特別養護老人ホーム	記入なし	2002	15	医療法人	病院	2003.4	2003
5	医療法人	医療法人	1954.4	1999	16	医療法人	医療法人	1991	2002
6	医療法人	医療法人	1994.4	2001	17	株式会社	株式会社	記入なし	2002
7	医療法人	医療法人	1989.1	2000.3 2001.4 2002.1	18	株式会社	株式会社	記入なし	2003
8	株式会社	株式会社	1974.1	2002	19	有限会社	有限会社	2002.7	2003
9	有限会社	有限会社	2001.11	2002	＊開設主体・運営主体については回答のままに表記しているが、本論では特別養護老人ホームとなっているものに関しては社会福祉法人、病院となっているものに関しては医療法人として扱う。				
10	有限会社	有限会社	2000.12	2001					
11	ＮＰＯ法人	ＮＰＯ法人	1990.11	2000					

にとどまっている。社会福祉法人のうち回答のあった5件の法人登記年度は、1980、85、94、95、98年とGH開設よりも遡り、営利法人の進出が少ない分、地域で実績のある社会福祉法人によって介護サービスが提供されていると考えられる。

一方で、事業開設年数からみると、1年未満のもの5件（26.3％）、1年以上2年未満のもの7件（36.8％）、2年以上3年未満のもの4件（21.1％）、3年以上のもの3件（15.8％）であった。GHが介護保険の対象となってから4年目の時点での調査であるため、開設年数の少なさは当然であるが、毎年着実に増加していることが分かる。

作表は、まず開設年数が1年未満のもの（調査番号1～11）とそれ以外のもの（調査番号12～19）に大別し、次に開設主体・運営主体の別を加えてアレンジしている。また、当調査の後に行ったヒアリングを主体とする調査[3]との整合性を保つため、調査番号14は開設期間が1年を超えているが、1年未満のほうに入れている。

2　設立経緯

設立を検討しはじめた時期（「いつ」）については、無記入3件と事業開設年度としたもの7件を除いた9件について分析を加える。設立の検討を始めてから事業開設までにおおよそ1年間の準備期間を費やしているものが7件（77.8％）、2年1件（11.1％）、3年1件（11.1％）である。その他、記述回答の内容から、2年以上を要しているものが1件あった。1年を超える準備期間を要している3件については、いずれも検討開始が1999年ないしそれ以前であり、介護保険制度発足前後であることから、新制度の活用にパイオニアとして取り組んだという背景が関係しているであろう。こうしたパイオニアを除けば、GHの設立には、平均約1年の準備期間が費やされている。

GHの設立方法については、県の既存施設活用型基盤整備促進事業の補助を受けたもの1件・町の施設整備計画の委託を受けたもの1件と、公的機関との連携・支援が明記してあるものが計2件あった。医療法人・株式会社の全額自己出資が各1件、有志で合同出資が1件、運営について補助金制度を利用していないという回答が1件あった。無回答は4件である。

設立の目的については、家庭的な環境や小規模介護をあげたものが3件、利用者の自立した生活・残存能力に応じた日常生活・人権や意思の尊重などをあげたものが3件、既存のデイサービスやケアハウス・特別養護老人ホームなどでのノウハウの活用が2件あった。

3　建築内容

新築17件（89.4％）、既存建築物改修2件（10.5％）と、新築が圧倒的多数を占めた。既存建築物改修の2件はいずれも元学生寮と元社員寮で、一般住宅ではなかった。GHの開設にあたっては、家庭的な雰囲気づくりのために住宅等のリフォームで運営することも

認められている。しかし、現実的な問題として、9名のユニット定員を充足できる一般的な既存住宅はごく限られており、設置の基準に合わせるためには相応の改造資金が必要であることなどから、むしろ新築のほうが設立・運営しやすいケースもあると考えられる。既存建築物改修のうち1件はユニット定員が6名となっており、こうした事情を反映していると考えられる。

ちなみに、改修の2件の運営主体はそれぞれ有限会社とNPO法人である。社会福祉法

表2　GHの設立経緯について

調査番号	い つ	事業開設年度	だ れ が	ど の よ う な か た ち で
1	1999	1999	社会福祉法人	DSおよびケアハウスの経営をしていて、痴呆の方が多く見られたので、福祉法人として設立
2	1999	2002	社会福祉法人理事会	痴呆性老人GH設立準備委員会を理事と職員で立ち上げて、視察・研修などを行い、設立にいたる
3	2001	2002	社会福祉法人	理事会にて決議
4	記入なし	2002	社会福祉法人	記入なし
5	1998（春）	1999	医療法人	家庭的な環境のもとで自立した日常生活を営めるように適正な介護を提供することを目的として設立。
6	2001	2001	医療法人	痴呆状態の方に対し、共同生活住居において家庭的環境の下で入浴・排泄・食事の介護、その他の日常生活及び機能訓練を行うことにより、利用者がその有する能力に応じた日常生活を営むことができるように援助することを目指している。
7	1999	2000.3 2001.4 2002.1	医療法人役員会において	当時GHは近隣市町村にはなく、痴呆高齢者やその家族のニーズに十分応えられない状況。既存の事業運営のノウハウを活かしたユニットケアを実施できるGH設置を計画。その後、入居によって痴呆症状の改善が見られることなどから、ユニットを増加。
8	2002	2002	会社代表取締役	DS、GHを中心として地域に根ざし、利用者の人権・意志を尊重した介護を目指します
9	2001	2002	病院勤務者4名	勤務先の病院の統廃合に伴い、合同出資し有限会社設立。県に許可申請しながら、前年より準備してきた新築グループホームを購入した土地に設立。
10	2000	2001	有限会社	親会社の全額出資で、有限会社を設立。
11	2000	2000	個人	グループホームにふさわしい家を探し始めてから2年目にみつかり、以前は近くの工業高校の寮で築30年の学生寮だった建物を家賃6万円で20年契約。改修が必要で、改修費獲得のため県・市に訴え、NPO法人としては初めての県単事業である既存施設活用型の基盤整備促進事業の適用を受け、改修費600万のうち500万の補助をうけ、行政の担当者の協力と理解を頂き資産のないNPOよりグループホームを設立した。
12	2003.5.1	2003	社会福祉法人	記入なし
13	記入なし	2003	記入なし	記入なし
14	1999	2001	社会福祉法人	町の痴呆性高齢者の施設整備計画によって、当法人が町より委託を受けて、1999年より整備を開始、2001年開設。
15	2002	2003	法人理事長	補助金制度を利用せず、自主運営
16	2002	2002	医療法人	2ユニット　18人で
17	2002.10.1	2002	建設会社	もともと輸入住宅の会社。2階建てアメリカン輸入住宅を新築、職員介護経験のあるスタッフを雇用。
18	記入なし	2003	記入なし	記入なし
19	2002.1	2003	脱サラした夫婦で法人設立	ホーム長及び事務長予定者が各種セミナー・GHフォーラム等で研修して。

＊表中下線は以下を示す。公的機関との連携、自己資金、家庭的・小規模介護、利用者の自立／尊厳、既存のノウハウ活用。DSはデイサービスの省略表記。

表3　GHの建築内容について

調査番号	運営主体	建築物	備考＊	調査番号	運営主体	建築物	備考＊
1	社会福祉法人	新築	既存施設あり(ケアハウス他)	12	社会福祉法人	新築	既存施設あり(特養、敷地は別)
2	社会福祉法人	新築	既存施設あり(特養)	13	社会福祉法人	新築	既存施設あり(デイサービス他)
3	社会福祉法人	新築	既存施設あり(特養)	14	社会福祉法人	新築	既存施設あり(特養、老健)
4	社会福祉法人	新築	既存施設あり(特養)	15	医療法人	新築	
5	医療法人	新築	既存施設あり(老健)	16	医療法人	新築	既存施設あり(医院)
6	医療法人	新築	既存施設あり(老健)	17	株式会社	新築	建設会社
7	医療法人	新築	既存施設あり(老健)	18	株式会社	新築	
8	株式会社	新築	輸入住宅の会社	19	有限会社	新築	
9	有限会社	新築		＊備考欄には、アンケートの回答からではなくWAM-NETより併設施設の有無の情報を集計側で加えている。			
10	有限会社	元社員寮改修					
11	ＮＰＯ法人	元学生寮改修					

人や医療法人に関しては、特別養護老人ホームや老人保健施設のような既存施設の敷地内にGHを新しく併設している例がほとんどである。

4　運営状況

各グループホームが保有するユニット数は、3ユニット4件（定員27名)、2ユニット7件（定員18名)、1ユニット8件（定員9名7件、定員6名1件)。有限会社GH3件とNPO法人GH1件はいずれも1ユニットであった。

表4　GHの運営状況について

調査番号	運営主体	ユニット数	合計定員(名)	受入対象者要介護度	常勤(名)		非常勤(名)		ボランティアについて
					専従	兼務	専従	兼務	
1	社会福祉法人	1	9	1－3	2	1	2	0	
2	社会福祉法人	2	18		4		11		
3	社会福祉法人	1	9		4		3		
4	社会福祉法人	1	9	1－5	4	1	1		
5	医療法人	1	9	1－5	7	0	0	0	受け入れ可
6	医療法人	3	27	1－5	15	21	3	0	
7	医療法人	3	27	1－5	21	0	0	0	随時受け入れ
8	株式会社	2	18		10	1	5		
9	有限会社	1	9	1－5	8				
10	有限会社	1	9	1－2・3	6	1	2		
11	ＮＰＯ法人	1	6	1－4	3	1	4	2	
12	社会福祉法人	2	18	1－5	6	0	6	0	なし
13	社会福祉法人	2	18	1－3	0	2	15	0	準備中
14	社会福祉法人	3	27	1－5	21	0	0	0	地域の人々によるイベント
15	医療法人	2	18	1－5	5	3	1	1	
16	医療法人	2	18		7	0	7	0	
17	株式会社	2	18		9	0	3	0	1名（高校生）
18	株式会社	3	27		7	0	0	0	月2～3回、歌・踊り・マジック・フラワーアレンジメント等。
19	有限会社	1	9		4	0	3	0	なし

＊　空欄は、記入のないもの

受け入れ対象者については無記入 7 件、要介護度 1 ～ 5 が 8 件、1 ～ 4 が 1 件、1 ～ 3 が 3 件であった。後述する「今後の課題」への回答で、要介護の高い入居希望者の受け入れをあげるケースもあり、受け入れについては、個々の GH・入居者の状況によって、流動的に判断しているようである。

職員体制については、回答方法にばらつきがあり、また、WAM-NET に掲載されている情報との不一致も見られたため、今回は分析を控える。併設施設職員と GH 専属職員の区別、兼務職員のあり方など、GH の職員体制づくりが模索段階にある可能性も考えられる。

ボランティアの受け入れについては、随時受け入れ可とするもの 1 件、レクリエーションやイベントに協力してくれるボランティアが 2 件、高校生ボランティアが 1 件あった。しかし、無回答 11 件、なし・準備中 3 件、受け入れ可 1 件と、全体的にはあまり積極的とはいえない。認知上の障害を持つ痴呆性高齢者が落ち着いて生活できるように、家庭的ななじみの環境をめざす GH と、不定期・不特定多数のボランティアの受け入れは、なじまない部分があるとも考えられる。

5　入居者の状況

平均年齢がもっとも高かったのは 88 歳（医療法人 GH）で、その他は 80.5 ～ 84 歳までに分布している。各 GH 内の人数を無視した平均年齢の平均は 82.83 歳である。また、入居者のうち男 38 名（15.3％）、女 210 名であった。

各 GH 入居者の要介護度平均は無回答 1 件をのぞき、1.56 ～ 3.63 までに分布している。最も高い 3.63（有限会社 GH）は次点の 2.93 と大きく離れており、やや特殊なサンプルといえるだろう。各 GH 内の人数を無視し、GH 毎の平均要介護度の全体平均は 2.31 である。

平均年齢・入居期間と平均要介護度の関係については、グラフ 1・グラフ 2 にまとめた。平均入居期間が 5 ヶ月～ 10 ヶ月のグループ A には、やや比例的な関係が見られるが、平均入居期間 5 ヶ月未満のグループ B はむしろ入居時の要介護度を反映していると思われる。また、平均年齢についても 81 歳から 84 歳までのグループ C にはやや比例的な関係が見られるが、曖昧である。いずれもサンプル数に対して例外の比率が高く、関係性については言明できない。

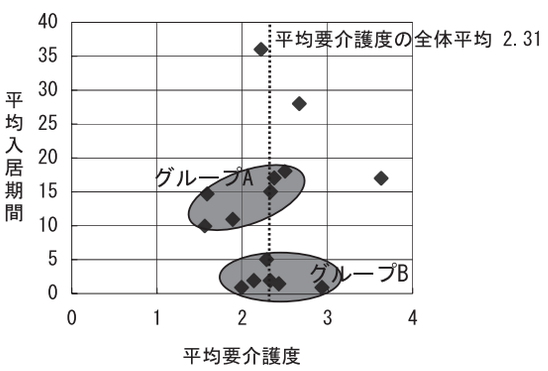
それに対して、1 ユニットのみからなる小規模な GH8 件のうち 6 件が、平均要介護度において全体平均を超えていることは注目に値する。入居者の受け入れ基準に関する GH 運営の判断が関係している可能性もある。しかし、GH 制度自体にまだ 4 年を超える実績がないことを考えると、入居者の要介護度の進行状況やそれが及ぼす GH 運営への影響は未知数である。

入居以前の居住地に関しては、同一市町村内 157 名（62.8％）、県内 79 名（31.6％）、県外 14 名（5.6％）と、全体では同一市町村内からの入居者が過半数を占める。全体の傾

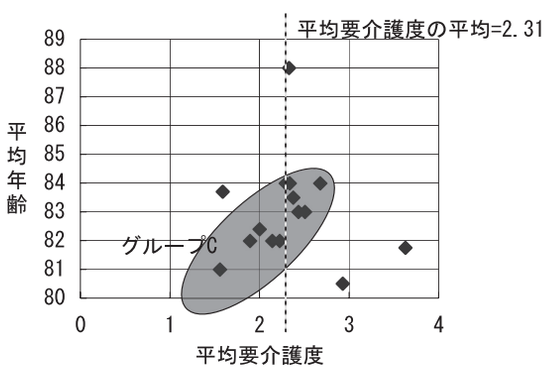
表5　GH入居者の状況について

調査番号	運営状況		入居者状況					入居以前の居住地			要介護度平均	要介護度（名）				
	運営主体	ユニット数	平均年齢（歳）	年齢の範囲（歳）	平均入居期間（月）	男（名）	女（名）	同一市町村内（名）	県内（名）	県外（名）		1	2	3	4	5
1	社会福祉法人	1	84	74-89	28	0	9	3	6	0	2.67	2	2	3	1	1
2	社会福祉法人	2	81	62-95	10	1	17	14	4	0	1.56	8	10	0	0	0
3	社会福祉法人	1	82	61-94	記入なし	2	7	8	1	0	2.33	2	3	3	1	0
4	社会福祉法人	1	84	79-93	記入なし	0	9	8	1	0	2.67	1	3	4	0	1
5	医療法人	1	82	75-89	36	1	8	5	4	0	2.22	2	5	0	2	0
6	医療法人	3	83.5	69-95	17	4	23	22	3	2	2.37	4	12	9	1	1
7	医療法人	3	83.7	71-95	14.7	2	25	8	15	4	1.59	14	11	1	1	0
8	株式会社	2	82	68-95	11	6	12	12	6	0	1.89	8	6	2	2	0
9	有限会社	1	81.75	68-89	17	2	6	1	4	3	3.63	0	1	3	2	2
10	有限会社	1	81	75-89	記入なし	0	9	8	1	0	1.67	4	4	1	0	0
11	ＮＰＯ法人	1	83	73-90	18	1	5	3	2	1	2.5	1	2	2	1	0
12	社会福祉法人	2	80.5	68-91	1	2	13	13	2	0	2.93	2	3	6	2	2
13	社会福祉法人	2	82.4	71-94	1	3	7	8	4		2	4	5	2	1	0
14	社会福祉法人	3	84	65-100	15	6	21	12	13	2	2.33	6	11	6	3	1
15	医療法人	2	88	84-94	2	0	3	3	0	0	2.33	1	1	0	1	0
16	医療法人	2	84	77-98	5	2	15	7	8	2	2.29	6	4	4	2	1
17	株式会社	2	82	65-89	5	2	11	12	1	0	－	記入なし				
18	株式会社	3	82	73-89	2	3	4	5	2	0	2.14	2	3	1	1	0
19	有限会社	1	83	80-90	1.5	1	6	5	2	0	2.43	0	4	3	0	0
平均／合計		1.79	82.83	－	11.5	38	210	157	79	14	2.31	－				
構成比（%）						15.32	84.68	62.8	31.6	5.6						

＊　網掛け部分は、特異な分布を示しているものである。



グラフ1　平均入居期間と平均要介護度



グラフ2　平均年齢と平均要介護度

向と大きくずれるのは調査番号1（3、6、0）、7（8、15、4）、9（1、4、3）の3件であるが、その理由は特定できない。立地条件、受け入れの考え方など今後多角的に検討する必要があるだろう。

6　入居者の生活の様子

自由記述式の回答一覧を表6に示した。ただし、GHの内部での生活とGHの外部での

表６　入居者の生活の様子について

調査番号	運営主体	生　活　の　様　子
1	社会福祉法人	日　々：朝食準備、掃除、健康チェック、入浴、昼食準備、散歩、レクリエーション、洗濯物片付け、合唱、夕食準備 週　間：材料買い出し、外食、お弁当をもって公園 月　間：利用者お誕生会、手作り昼食会２回 年　間：春（花祭り参加）、お花見 他　：併設のケアハウス・デイサービスの行事に参加 生活圏：GH周辺、隣接温泉、散歩の公園、町のスーパー（車）、病院（車） 外　出：スタッフと入居者で遠方にも外出･外食ツアー、家族と散歩･美容院などへ（１～３ヶ月） 外　泊：ほとんどなし 面　会：家族・兄弟等入居以降１～２回、保護者の方１～２回／月
2	社会福祉法人	日　々：朝食準備、掃除、洗濯物干し、体操、お茶、昼食準備、買い物、入浴、趣味、夕食準備など 週　間：あまり予定をつくらず、希望にあわせて外食･買い物、畑の草むしり、水やり、収穫など 月　間：季節行事 年　間：外出イベント（年４～５回）、家族交流会 他　： 生活圏：畑（徒歩10分）、買い物、市民センター、図書館、市営農村公園（車10km） 外　出：スタッフと買い物（２回／週）、家族と外食・買い物・通院など（１～２回／週、１回／１～２ヶ月） 外　泊：ほとんどなし、特定の人だけ（自宅や温泉に年３回くらい） 面　会：家族・親戚が１～２回／週くらいから１回／１～２ヶ月
3	社会福祉法人	日　々：6時起床、朝食、9時掃除洗濯、お茶、12時昼食、入浴、外出他、散歩、18時夕食、自由時間、21時就寝 週　間：買い物、受診 月　間：外出、外食 年　間：お正月、納涼祭、運動会、クリスマス会 他　： 生活圏：市内スーパー、近所の病院で受診、市内美容室など 外　出：20分くらいのスーパーなどへの買い物、病院、美容室など。家族と30～40分。 外　泊：自宅へ１泊程度。 面　会：週２～３回から月１回程度まで。
4	社会福祉法人	日　々：午前中掃除、お茶、散歩、レク、食材買い物、午後入浴、お茶、余暇活動 週　間： 月　間：外食、苑外レク 年　間：季節の行事、行事食　他： 生活圏：日中居室にはあまりこもっていない、苑内の庭の散策 外　出：１日おきに食材の買い物、外食、苑外レク、家族と散髪、外食、ドライブ 外　泊：お盆、お正月の外泊 面　会：少なくとも月に１回（少なくない）
5	医 療 法 人	日　々：朝食後、自室の掃除、お茶、散歩、昼食、自由時間、入浴、お茶、夕食準備の手伝い、夕食、自由時間 週　間：買い物１回 月　間：外食（いきつけの定食屋さん１回／月）、回転寿司（１回／３ヶ月） 年　間：誕生会、隣の老健の行事に参加（敬老会、夏祭り、運動会、クリスマス会）流しそうめん大会、もちつき大会、小旅行 他　： 生活圏：ホーム内共有スペース、隣接する老健に散歩、車でドライブ 外　出：スタッフと買い物しばしば、個人的に家族と外食・ドライブ 外　泊：家族と 面　会：家族２～３回／月、その他友人
6	医 療 法 人	日　々：モーニングコール、本人・家族の希望を聞き本人中心の目標を立てて個別の生活や特性を活かし、健康管理・安全を確保しながら生活を送るようにしている 週　間： 月　間：併設の老健施設の行事に月1～2回参加。外食、誕生会。敷地が広いので花・野菜作り 年　間： 他　： 生活圏：敷地が広いのが魅力。朝食後、散歩できる方は個々に散歩 外　出：家人・職員とともに自由に外出。届出用紙を提出 外　泊：行き先・連絡先を明記し、届出用紙を提出 面　会：問題ない限り自由
7	医 療 法 人	日　々：８時起床、朝食、掃除、お茶、12時昼食、レク／入浴、おやつ、18時夕食、片づけ、21時就寝 週　間：外食・ドライブ週１回 月　間： 年　間： 他　：季節感のある行事、昔懐かしいことなど 生活圏：徒歩圏（散歩、家庭菜園、別ユニットでの合同レク、併設老健イベント） 外　出：食材の買い出し２日に１回（車）、定期検診２週間に１回 外　泊：家族と外泊（自宅または家族宅） 面　会：毎週～数ヶ月に１度

8	株式会社	日　々：散歩、台所仕事手伝い、自室の掃除（他の人の分も）、買物（希望者）、入浴、レクリエーション 週　間： 月　間：遠足（1、2回）、音楽療法、マジックショー、民話、日本舞踊 年　間：お花見、夏祭り、クリスマス会、節分、誕生会 他　：菜園にて野菜の収穫、図書館（隣接公共図書館） 生活圏：徒歩1から2km圏（散歩）、車5～10分圏（買い物） 外　出：家族と1～3回／月、スタッフと1～2回／月、医者1～4回／月 外　泊：家族と1～2回／月（3～4名のみ）、なし（15名程度） 面　会：1、2回／週～1回／月
9	有限会社	日　々：基本的には日常生活を中心に、居間（TV・ソファー）で会話（回想法）や遊びを行い、天候によりドライブ・園芸・その他を実施。入浴は毎日。 週　間： 月　間：1月―正月外泊・神社参拝、2月―節分・公園散策、3月―雛祭り・避難訓練、4月―健診・花見、5月―レクリエーション・ピクニック、6月―レクリエーション・ピクニック、7月―七夕、8月―お盆外泊・外出、9月―十五夜、10月―温泉旅行、11月―菊人形花見・寺参拝、12月―ソーマス・年末外泊外出。 年　間： 他　：他施設の行事に随時参加 生活圏：ホーム内及び当ホーム周辺。 外　出：外出可能な者が、家族と当ホーム市内や周辺をドライブ（食事）。1～3時間程度。 外　泊：外泊可能な者が家族と自宅へ1～3日間程度（強制ではない）、年末年始とお盆に。 面　会：家族（知人）が30分～1時間程度、土日及び生活利用料支払い日に面会。
10	有限会社	日　々：5～6時起床、7時朝食、お茶、買い物外出、12時昼食、ミーティング、お茶、入浴、17時夕食、自由、21時就寝。 週　間：あらかじめ決めず、会話の中から行事を考えていく。お寿司パーティー、外出など。 月　間：あらかじめ決めず、会話の中から行事を考えていく。お誕生会、お祭りなど。 年　間：四季の行事 他　： 生活圏：外出の範囲 外　出：スタッフとスーパー、美容室、市役所、散歩、外食など。家族と旅行、外食、買い物など。 外　泊：GHの旅行。自宅に泊まることはない。 面　会：子が月1～2回から、親戚年に1～3回程度まで。
11	ＮＰＯ法人	日　々：起床（4：30－8：30）－朝食－清掃－おやつ－散歩－昼食－テレビ－買い物－レクレーション・庭の手入れ・洗濯物たたみ－おやつ－入浴－夕食－就寝 週　間： 月　間： 年　間：4月－花見、5月－竹の子掘り、6月－花見、7月－1泊旅行、8月－GH主催祭り、9月－ボランティアフェスタ、10月－紅葉見物、11月－さんま祭り、12月－＊餅つき、1月－正月1泊帰宅、2月－新年会、3月－バザー、臨時で買い物、日光方面へドライブ、月1回の昔語り、絵画教室 他　： 生活圏：天気の良い日はできるだけ外に出る機会を設けており、隣の市の娘宅にも行かれる。 外　出：年1回の1泊旅行はスタッフと利用者全員で外出。 日常は月1回施設の車にて全員で外食したり、周辺のスーパーへ行ったりする。 外　泊：正月は自宅に1泊外泊をお願いしているが、1名は拒否されている。 1名の方は毎月娘宅に2泊3日の外泊をされている。 面　会：月1回の利用料納金時に面会されている。家族によって差があり、2名は月2回程度。
12	社会福祉法人	日　々：起床、朝食、清掃、お茶、自由時間。昼食後買い物（職員と1、2名が一緒に行く）。入浴。 週　間：現在検討中 月　間：現在検討中 年　間：現在検討中 他　： 生活圏：周辺散歩、近隣スーパーなど 外　出：ユニットごとにスタッフと買い物（車で毎日）1～2名 外　泊：現在のところなし 面　会：同居者が1回／週程度
13	社会福祉法人	日　々： 週　間： 月　間： 年　間： 他　：自然を生かした土とのふれあいを中心にスケジュールを構成 生活圏：日ホーム内。都賀町。 外　出：スタッフと買い物（毎日）、外食 外　泊：家族宅（週1回～月1回） 面　会：家族
14	社会福祉法人	日　々：清掃、お茶、生け花・押し花、昼食下ごしらえ、買い物、クラブ活動、入浴、通院、夕食準備 週　間： 月　間：行事担当者3名で毎月企画を立てる（ドライブ、外食、花見、納涼祭、花火、買い物など） 年　間：季節ごとの行事、国民の行事など（お正月、節分、ひな祭り、紅葉狩り、芋煮会、クリスマス、大晦日など） 他　： 生活圏：ホーム周辺散歩、同施設内の活動・行事参加、地域行事参加、ドライブ（食事会、買い物） 外　出：ホームヘルパー、家族と通院、買い物、食事数回／月 外　泊：2～3割の人が家族と自宅（お正月・お盆等2泊～3泊） 面　会：家族、身内、知人（毎日、2～3回／月）

15	医 療 法 人	日　々：朝食、洗濯物干し、掃除、買い物または散歩、昼食準備手伝い、自由時間、洗濯物取り入れ、ドライブ、就職準備手伝い、入浴 週　間： 月　間： 年　間：季節ごとの行事 他　： 生活圏：ADLほとんど自立 外　出：スタッフと買い物がてら散歩・ドライブ（毎日） 外　泊：なし 面　会：家族（1回／週）
16	医 療 法 人	日　々：朝食、部屋掃除、畑に水やり、ラジオ体操、散歩、リビングで談話、入浴、食事下ごしらえと片づけ 週　間： 月　間：利用者お誕生会、バイキング 年　間：春（花祭り参加） 他　：併設のデイケアと一緒にボランティアの人たちと交流 生活圏：GH半径2km 外　出：家族と買い物、美容室、コンサート等 外　泊：なし（家族がGHに週末に宿泊することがある） 面　会：家族、友人等
17	株 式 会 社	日　々：家事を共に行う、散歩、歌、家庭菜園、2－3名はスタッフと一緒に買い物 週　間： 月　間： 年　間：季節ごとの行事（もちつき、そばうち、クリスマス会など） 他　： 生活圏：ホーム内、散歩（施設周辺10－30分）、買い物（近所のホームセンター、スーパー等） 外　出：家族と通院、自宅 外　泊：家族と自宅（2泊～3泊） 面　会：家族、身内、友人、知人
18	株 式 会 社	日　々：朝食、散歩、おやつ、昼食、入浴、おやつ、レクリエーション、夕食 週　間： 月　間：外出2～3回（バラ園見学、ランチなど） 年　間：未定 他　： 生活圏：日常はホーム内。散歩30分～1時間。買い物1時間。スタッフと外出3時間。 外　出：散歩、買い物、レクリエーション（見学、食事など） 外　泊：1名自宅等へ1泊 面　会：家族（1回／週）
19	有 限 会 社	日　々：食事片付け、散歩（随時）、掃除、談話、入浴 週　間：買い物1回 月　間：イベント1回（ドライブ、食事会） 年　間：季節ごとの行事（ひな祭り、七夕、盆踊り等） 他　： 生活圏：ホーム内外、公園、スーパーなど 外　出：スタッフと通院1回／週、スタッフと買い物1～2回／月、家族と通院2回／週 外　泊：家族と（特）回、なし（15名程度） 面　会：1～3回／週～2～3回／月

＊特に記入のない項目名もそのまま残している。

生活状況を区分するため、回答中の外出機会に関する部分については、集計側の判断で、網掛け表示している。

以上の回答からは、GH内部での生活スケジュールには大きな差異は認められないが、GH外部での生活状況に多少の差異が見られる。ここでは、日常的な外出機会と非日常的・イベント的な外出機会に分けて、GH外部における生活状況を分析してみる。

日課的な外出機会は、散歩（14）、買物（10）、家庭菜園や庭の手入れ・洗濯物干しなど屋外での家事（7）、通院（1）の順に多い。週間スケジュールは特に設けていないところが12件と過半数を占める。週に2～3回実施しているという場合に、日課との区別がつきにくいということもあるだろう。週間スケジュールとして回答のあったものは、外食（7）、買物（5…日課の買物とは重複しないようにカウントしている）、ドライブや畑の手

入れ等娯楽的な外出（6）、通院（3）である。日課と比べると、ドライブや外食といった車を使った娯楽的な外出が出てきているが、日課とオーバーラップする内容も多く含まれ、日課と週間スケジュールの両方をあわせると、日常的な外出状況が見えてくる。

以上をまとめると、散歩と買物が日常的な外出の大半を占めていること、買物には車がよく使われ、個人差はあるが、ときどき家族とも出かけていることが伺われる。その他、週1回位の頻度で外食やドライブにでかけているGHがあること、毎週のように通院しているケースも若干ながらあることがわかる。（表7参照）

つぎに、月間・年間のスケジュールにおける外出機会を抽出する。月間スケジュールを特に決めないGHは8件あり、約42％にのぼる。（自由記述式の回答に、月間スケジュールとして季節行事が含まれている場合は、他のGHからの回答状況を鑑みて、集計側の判断で年間行事と捉えることにした。）月間スケジュールでは、レクリエーション・楽しみとしての外出が9件、外食8件、家庭菜園2件、医療1件と、日々の生活の必要よりも、生活に変化と刺激をもたらすイベント的なスケジュールが多くを占め、状況次第で外食にしたりドライブにしたり、家族が面会に来た時の外出・外食・小旅行などに柔軟に対応し

表7：日常的な外出の状況

	日　課　的　外　出	週間スケジュールにおける外出
散歩：14件 （14件）	(1) GH周辺・隣接温泉 (3) (4) 苑内 (5) 併設老健へ (6) 苑内 (8) 徒歩1～2 km、隣接公共図書館など (11) 天気の良い時 (12) 周辺散歩 (14) ホーム周辺散歩 (15) 買物または散歩 (16) GH半径2 km (17) GH周辺10～30分 (18) 30分～1時間 (19) 随時、ホーム内外、公園	
買物：15件 （10件＋5件）	(4) 1日おきに (7) 食材、2日に1回、車で (8) 希望者、車で5～10分 (10) スーパー等 (11) 周辺スーパー、スタッフと車で (12) 毎日1～2名、スタッフと車で (13) 毎日、スタッフと (14) 車で (15) 買物がてら散歩ドライブ、スタッフと (17) 近所のホームセンター、スーパー等、2～3名	(1) 町のスーパー、車で (2) 週2回、スタッフと、家族と (3) 20分くらいのスーパー (5) 1回、スタッフと、家族と (19) 1回、スーパー等
庭・家庭菜園他： 7件（5件＋2件）	(2) 洗濯物干し (11) 庭手入れ (15) 洗濯物 (16) 畑に水やり (17) 家庭菜園	(9) 天候により園芸 (7) 家庭菜園
通院：4件 （1件＋3件）	(14) 通院	(3) 受診 (7) 定期検診、2週間に1回 (19) 通院、スタッフと、家族と
外食：3件		(1) (2) スタッフと、家族と (7) 外食かドライブ週1回
ドライブ・娯楽等： 6件（1件＋5件）	(15) 買物がてらドライブ（毎日）、スタッフと	(1) お弁当を持って公園へ (2) 畑の手入れ、徒歩10分 (7) 外食かドライブ週1回 (9) 天候により市内、GH周辺 (10) あらかじめ決めず、会話の中から外出など

＊冒頭の（　）内数字は、調査番号を示す。調査番号の後に説明文がついているものは回答で特に説明のあったもの、なにも説明文がついていないものは、特に内容に関する記述のなかったものである。

ている様が伺える。

これに対して年間スケジュールは、国民行事・季節の行事を軸に、毎月のイベントとしてあらかじめ決まったテーマを組んでおいて実施する（19 件中 16 件）。したがって、月間・年間スケジュールをあわせると、イベント的な外出状況の全体がみえてくる。（表 8 参照）

入居者の外出は、日常的なものはほとんど GH のスタッフと行くのに対して、月間スケジュールには家族が関わってくる場面が多い。家族は主に、外食・外出・ドライブ・買物・病院・美容院などの外出に関わっている。

年間スケジュールの外出を伴う行事には、主として、地域行事への参加（7）、併設施

表 8 ：イベント的な外出の状況

	月間スケジュールにおける外出		年間スケジュールにおける外出
	スタッフと	家族と	
外食：（9件、5件）（スタッフ、家族）	(1) 遠方へ外出・外食ツアー (3) (4) (5) 行きつけの定食屋1回、回転寿司3ヶ月1回 (6) (11) 施設の車で1回 (14) 行事担当3名で毎月企画(外食、等) (18) 外出2～3回、外食・バラ園見学等 (19) イベントを1回（ドライブ、食事会）	(1) 散歩・美容院等 (2) 外食・買物・通院 (3) 買物・病院・美容院、20－30分 (4) 外食・散髪・ドライブ (5) 家族と外食・ドライブ (8) 家族と外出1～3回 (10) 美容院、家族と外食・買物など (14) 家族と食事・買物・通院 (16) 家族と買物・コンサート・美容院など (17) 家族と通院 (18) 家族と通院（週一回）	
レクリエーション・外出・買物・美容院など：（12件、14件）（スタッフ、家族）	(1) 遠方へ外出・外食ツアー (3) (4) 苑外レクリエーション (8) 遠足1～2回、外出1～2回 (11) 臨時で買物、日光方面へドライブ (14) 行事担当3名で毎月企画（ドライブ、買物、各種行事への参加等） (18) 外出2～3回、外食・バラ園見学等 (19) イベントを1回（ドライブ、食事会）		(2) 外出イベント 4 ～ 5 回 (5) 小旅行 (9) レクリエーションピクニック、温泉旅行 (10) 家族と旅行
医療（2件、4件）（スタッフ、家族）	(1) 1～4回 (14) ホームヘルパーと通院		
行事：16件			(1) 花祭り、お花見、併設施設の行事に参加 (2) 季節の行事 (3) お正月、納涼祭、運動会、クリスマス会 (4) 季節の行事、行事食 (5) 隣接老健の行事に参加、敬老会、夏祭り、運動会、クリスマス会 (6) 併設老健の行事に 1 ～ 2 回参加 (7) 季節感のある行事 (8) お花見、夏祭り、クリスマス会など (9) 毎月季節の行事を外出を伴う形で、例：正月外泊・神社参拝等 (10) 四季の行事 (11) 毎月の行事、花見などの外出、GH 主催祭など (14) 季節の行事、国民の行事、併設施設行事・地域行事に参加 (15) 季節毎の行事 (16) 春（花祭り参加） (17) 季節毎の行事 (19) 季節毎の行事
その他：2 件	(6) 敷地が広いので花・野菜作り		(8) 菜園にて野菜の収穫
外泊：13 件		(8) 家族と1～2回（3、4名のみ） (13) 家族宅（週1回～月1回）	(3) 自宅へ1泊程度 (5) 家族と (7) 家族と（自宅または家族宅） (9) 外泊可能な者が家族と自宅へ1～3日間程度。年末年始、御盆 (10) GHの旅行、自宅に泊まることはない (11) GHの1泊旅行、スタッフ・利用者全員で正月に自宅に1泊お願いしているが1名は拒否されている。 (14) 2～3 割の人が家族と自宅（お正月、御盆 2～3 泊） (17) 家族と自宅（2～3 泊） (18) 1 名だけ自宅等へ 1 泊

＊　冒頭の（　）内数字は、調査番号を示す。調査番号の後に説明文がついているものは回答で特に説明のあったもの、なにも説明がついていないのは、特に内容に関する記述のなかったものである。

設で主催する行事への参加（4）からなる。また、数は少ないが、GHが地域行事（2）を主催している例が2件、知的障害者施設や在宅介護支援センターなど地域の福祉施設の行事に参加しているという回答も1件あった。

外泊については、「ほとんどなし」、「現在のところない」などがあわせて6件あり、「ある」とした場合、御盆や年末年始・正月等、年に1回～2回の頻度が普通である。しかし、「ある」とするGHの中でも、入居者毎の個人差があり、家族や自宅への外泊がない入居者もいる。正月の一泊を家族側が断るケースもあり、家族によるケア・受け入れが困難な状況があることが伺える。宿泊先は自宅・家族宅に集中しているが、2件だけGHのスタッフと出かける旅行外泊を実施しているところもある。

以上より、日常的な生活における外出機会と、月間・年間スケジュール上でのイベント

表9　GH入居者の生活における外出状況

調査番号	日常的な外出の状況							イベント的な外出の状況																	
	日毎の外出機会			週毎の外出機会				月毎の外出機会										年間の外出機会							
								外食		買物		娯楽・散歩		医療		美容院		行事・祭り				旅行		外泊	
	散歩	買物	菜園・庭等	買物	外食	娯楽	医療	GH	家族	GH	家族	GH	家族	GH	家族	GH	家族	地域	併設	他施設	GH	GH	家族	家族	GH旅行
1	●			●	●	●		●				●	■				■	●	●			●		×	×
2			○	●	●	●			■		■				■			●				●		■	
3	●			●			●	●				●	■				■	●						■	
4	△	●			●			●	■			●	■				■	●						■	
5	△			●				●	■				■									●		■	
6	△							●											●						
7		●	○		●	●	●											▽	●					■	
8	●	●										●	■	●				→			●			■	
9			○		●	●												●		●		●		■	
10		●			●	●			■		■					●		●					■	×	●
11	●	●	○					●		●		●									●			■	●
12	●	●																→						×	×
13		●			●													→						■	
14	●	●					●	●	■	●	■	●		★	■			●	●					■	
15	●	●	○			●												→						×	×
16	●		○								■		■				■	→						×	×
17	●	●	○												■			→						■	
18	●							●				●						×						■	
19	●			●			●	●				●			■			→						■	
小計	14	10	7	5	7	6	4	9	5	2	4	8	6	2	4	1	4	7	4	1	2	4	1	13	2
								11(3)		5(1)		10(4)		5(1)		5						5		14(1)	

●：GHスタッフと外出機会がある
○：敷地内で家庭菜園や選択物干等
△：散歩は日課・または随時だが、GH・併設施設敷地内に限定される
★：ホームヘルパーと外出機会がある
■：家族と外出機会がある
▽：地域行事への参加はあるが、場所提供というかたち
×：ほとんどない、なし、などと明記されたもの
→：現在はないが企画調整中・今後参加希望など
空欄：特に記入／回答がないもの、小計欄下段の（　）内は重複件数

的な外出機会を上の表 9 にまとめた。イベント的な外出機会において、家族が同行するものについては、GH のスタッフとは別に家族欄を設け、それぞれ「GH」「家族」と表項目に示した。また、年間スケジュールの内､「行事・祭り」項は、地域行事への参加を「地域」、併設施設行事への参加を「併設」、他施設の行事への参加を「他施設」、GH 主催の行事があるものを「GH」と省略表記している。

7　地域との関わりと今後の課題

具体的な交流の状況について、地域のボランティア団体等の訪問があるもの 4 件、保育園児・小中高校生などの訪問があるもの 4 件、文化祭や運動会・納涼祭等地域の行事に参加しているもの 7 件、散歩中・買物中に「挨拶」などが 7 件、お裾分けや野菜の差し入れ・遊びにくるなどが 3 件あった。4 件が「特になし」「無記入」となっているが、そのうち 3 件から「どうしたら地域の方と交流を持てるのか…思案中」、「可能であれば一住民として地域の行事や自治会に参加させて頂きたい」、「地元老人会との交流を検討中」と、将来的な地域との交流を望む回答がでている。

GH の地域内での活動については、全 19 件中、「なし」が 17 件（企画準備中 4 件、併設施設イベントのあるもの 4 件を含む）と、89.5％を占め、GH 側からの地域への働きかけについては多いとはいえない｡「今後の課題」として地域の行事等への参加が 5 件あげられたのに対して、GH 主催の地域行事開催や GH 側からの働きかけなどについては 3 件（うち 2 件はすでに実施実績のある 2 件と一致する）にとどまり、GH による自主的な地域内活動が困難であるか、地域の住民らが複数同時に GH を訪れるようなイベントに対して多くの GH が慎重な態度をとっているようである。ただし、実施実績のある 2 件は GH で主催したバザーや行事がきっかけとなって GH や痴呆にたいする理解が深まった、周辺住民が実施に協力してくれた等、地域との交流の深まりを実感している。

今後の課題として、地域との交流については「理解を得る」5 件がもっとも多く、以下「もっと気軽に遊びに来られる雰囲気を作る」4 件､「地域の行事に積極的に参加したい」4 件､「交流のきっかけとなる場づくり・働きかけ・行事の実施」3 件であった。その他､「交流のきっかけが分からない」1 件と、地域との交流に糸口がつかめないでいるものもあった。また、入居者のプライバシーを守るという観点から地域との交流は慎重に進めるべきであるという意見も 1 件あった。

その他の課題として、入居者の身体状況の悪化に伴う「ターミナルケア／ GH 退去後」の問題が 4 件、入居者の「生活の充実」2 件、「要介護度の高いケースの受け入れの基準」2 件､「精神科対応のケースへの対処」1 件が寄せられた。

表10　GHと地域との関係・地域内での活動・今後の課題について

調査番号	運営主体	地域との関係	地域内での活動	今後の課題
1	社会福祉法人	具体的な交流の状況：地域のボランティアとの交流、小中学生のケアハウス、デイサービス、GH訪問（話、ゲーム）、併設施設全体祭り 地域行事：自治会等からの呼びかけで、お祭り・行事に参加可能なものは参加するようにしている。 今後の課題：より地域の皆様の理解を得て、おつきあいをして行きたい。	GH主催のイベントはなし 併設施設全体での祭り（毎年11月23日法人主催祭り）：参加者多数、町内小学校のコーラス、ボランティアの参加もある	
2	社会福祉法人	具体的な交流の状況：散歩・畑に行った時に声を掛け合う程度 地域行事：地元自治会からもちつきに招待されて参加する、学校の運動会に参加 今後の課題：近隣の方がもっと気軽に遊びにきたり、お茶のみにこられるような雰囲気を作って行きたい。	まだ実施していない。 今年（2003年）夏、バーベキューと運動会に地域の方、子供達に参加を呼びかける予定	近隣の方がもっと気軽に遊びにきたり、お茶のみにこられるような雰囲気を作って行きたい
3	社会福祉法人	具体的な交流の状況：散歩ですれ違って挨拶程度。 地域の設備・サービス等：なし。 地域行事：納涼祭に参加 現在の課題：地域との交流のきっかけがわからない。 今後の課題：地域の行事などへ積極的に参加していきたい。 ボランティアへの期待：入居者が喜んでくれるような人が来てくれるといい。	なし。	他の施設へのアンケート結果なども参考にしたい。
4	社会福祉法人	地域行事：文化祭（作品の出展）、運動会見学など	なし	
5	医療法人	今後の課題：どうしたら地域の方と交流が持てるのか……思案中です ボランティアへの期待：入居者中心に考えてくれる方、楽しんで接してくれる方	特になし。 なかなか難しい状況。1人だけ、家族が隣の老健に入所されていた関係で、家も近くということもあり、時々みそづくりやそば・うどんの手打ちを教えてくれる。	入居者の方がもっと楽しく、穏やかに生活していけるように日々努力です。
6	医療法人	具体的な交流の状況：地域ボランティアによる周囲の草取り、畑の管理指導 今後の課題：痴呆に対する理解を得ながらより一層充実した生活が送れるようにしたい ボランティアへの期待：学生の実習等のボランティア活動	なし（併設老健と共に催しあり）	地域の参加等、個人のプライバシー問題もあるので、地域の方の理解を得る必要はあるが、余りこだわりを持てないと思う。お預かりしている限り本当に身長に対応しないといけない。けが・事故等の心配があるし、責任問題等様々な問題がる。
7	医療法人	具体的な交流の状況：買物などの外出時、行事の開催時、立地条件から「近所付き合い」は難しい 地域の設備・サービス等：社会福祉協議会の福祉バス、公営博物館・浴場、高齢者割引のある施設 自治会との関係：参加していない 地域行事：地元のお祭りの御輿休憩所として場所を提供 現在の課題：特になし 今後の課題：スタッフの意識付け ボランティアへの期待：痴呆への理解が広がり、スタッフに刺激となるように随時受け入れ。	併設老健と合同納涼祭、地元の祭、2ヶ月毎に広報誌作成（役場・近隣病院などへ配布）、納涼祭・施設の行事に参加するボランティア（小学生や幼稚園児も）が増えている。	将来における福祉施設間の過当競争状態、単独設立による弱点あり。入居者の入居後における変容（レベルダウン、痴呆状態の悪化と問題行動）。
8	株式会社	具体的な交流内容：散歩中の話、クリーニングのお願い、菜園で農作物の育て方を教わるなど利用している 地域資源：移動理美容車（1回／2ヶ月）、隣接図書館（映画） 自治会への参加：自治会としては特に行事はない 今後の課題：幼稚園、保育園、小中学校の運動会、お遊戯会への参加を検討 ボランティア：利用者とのコミュニケーションのとれる方を期待	GH主催：夏祭り、敬老会、クリスマス会など。行事を重ねる毎にGHに対する理解が深まり、地域参加がしやすい状況になっている。	入居者の症状がだんだん進んでいく中で、ターミナルケアを経験した。すべての入居者が希望通りにホームで過ごすことが不可能なこともある。重症化しつつある利用者を他施設・病院に移すだけでは解決できない問題がある。最後まで家族と同じような雰囲気の中で、その人の望むかたちで終わることはできないのかと思う。
9	有限会社	具体的な交流の状況：他施設の行事に参加、地域ボランティアの援助、ホーム付近の住民に遊びに来てもらう、理美容は地域内の業者に出張してきてもらう。 地域の設備・サービス等：知的障害者施設、在宅介護支援センター、高齢者福祉センター。 地域行事：知的障害者施設の祭り・行事参加。敬老会による集まりに時々参加（月2回）。		高齢者が痴呆のみではなく加齢と共に身体機能も衰えてきており、今後終末期をどのような形にしていくか検討中。
10	有限会社	具体的な交流の状況：お裾分け、庭で声をかける、挨拶、犬を通じて、子どもが遊びに来て父親が一緒に来るなど。 自治会との関係：自治会に加入 地域行事：自治会の行事 現在の課題：痴呆について見下している所がある。理解が進まない。 今後の課題：もっと気軽にお茶を飲みに来たり、話し相手になってもらえるように働きかけていきたい。		「いかにそれぞれの方に、自分らしく生活していただくか」それぞれの方を大切にしたい

11	NPO法人	具体的な交流の状況：挨拶を交わしたり、野菜を頂いたりの交流であり、何人かの人は時折遊びにきている。 地域の設備・サービス等：社会資源活用は昔語りを聞く、シニア研修生・中高生とのコミュニケーション。 自治会との関係：自治会に参加し、地域住民と触れ合い機会を多くしている。 現在の課題：地域交流ができるような場作りを積極的に働きかけていく。 今後の課題：グループホームに気軽に足を運んで頂けるように行事を取り入れていく。 ボランティアへの期待：ボランティアに日常来て頂いても、利用者の中には不機嫌になられ、自分の生活を見てほしくはなく、いつもの見慣れたスタッフとの落ち着いた生活を希望される方もいる。日常スタッフ2名で多忙なため、行事の時等は非常に嬉しく思う。	バザー：会場・駐車場を提供してくださり、会場設営等も近所の協力を得られる。今年がグループホーム単独で初めての祭りのため、近所に呼びかけた。来年度は市広報に掲載し、多くのボランティアに活躍していただきたい。	精神科対応のケース、介護度の高いケースの受け入れ準備を明確にすべきか否かの判断に苦慮
12	社会福祉法人	具体的な交流の状況：特になし 地域の設備・サービス等：特になし 自治会との関係：特になし 地域行事：特になし 現在の課題：特になし 今後の課題：今後は、GH利用者も可能であれば一住民として地域の行事や自治会に参加させていただきたい ボランティアへの期待：地域のボランティアの方が利用者をどんどん地域に連れ出していただけたらと考えている	特になし	ケアマネージャー等のGHの役割についての理解不足を感じている。
13	社会福祉法人	具体的な交流の状況：地域の小中学校との交流会、ボランティア団体の訪問 地域の設備・サービス等：デイサービスセンター 自治会との関係：企画調整中 地域行事：企画調整中 現在の課題：雑排水処理問題（建設中より問題となっていた） 今後の課題：身近な地域との関わりを持ちたいとは思うが、利用者本人・ご家族の感情を考えて、方法を模索中。 ボランティアへの期待：別紙参照	企画中。	
14	社会福祉法人	具体的な交流の状況：地域の人々のボランティア（書道、民話の会、押し花、フラワー・アレンジメント等） 地域行事：蘭学祭り、夏祭り ボランティアへの期待：レクリエーション、機能訓練等、多岐にわたる活動を状態に応じて受け入れて行きたい。	感謝祭（運営母体法人の活動に参加）、夏祭り 出店・バザー・演技などがあり、近所の人が大勢くる	
15	医療法人	具体的な交流の状況：近隣商店・スーパーでのなじみの関係をつくっている 自治会との関係：自治会でのイベント・行事等がない 地域行事：今後行事等があれば積極的に参加したい 現在の課題：自治会に呼びかけて行事を開催したい 今後の課題：「GHとは何か」を地域の人々に知ってもらいたい。 ボランティアへの期待：趣味や特技の有無に関わらず、入居者とおしゃべりをするだけでも楽しい時間を過ごしてほしい。	特になし（今後検討予定）	
16	医療法人	地域の設備・サービス等：近くの保育園児の訪問・交流会 自治会との関係：なし 地域行事：なし 今後の課題：ボランティアの協力・地元老人会との交流などを検討 ボランティアへの期待：今後積極的に受け入れて行きたい	なし	
17	株式会社	具体的な交流の状況：散歩の時に声をかける 地域の設備・サービス等：今のところなし 自治会との関係：今後検討していきたい。 地域行事：今後検討していきたい。 現在の課題：開設前の偏見が散歩等の様子を見て自然に解消されてきている 今後の課題：地域交流としての行事 ボランティアへの期待：さまざまな形でお願いして行きたい	特になし。もちつきの時に近所の人が応援にきて下さった。	
18	株式会社	具体的な交流の状況：交流センターがGHに隣接しているので、ボランティアの人が来るときは地域の人たちも一緒に楽しむ。 地域の設備・サービス等：宇都宮市緑化課からお花を貰い、手入れしている。 自治会との関係：自治会に入会 地域行事：自治会等特に行事はない 現在の課題：気軽に触れあいたい 今後の課題：交流を深める ボランティアへの期待：継続的にきて入居者と交流を深めてほしい。		家庭的に！！
19	有限会社	具体的な交流の状況：近所の子供、知人などが気軽に立ち寄ってくれる 地域の設備・サービス等：身体障害者居宅介護サービス 自治会との関係：自宅の方で自治会に入っているため、GHの地域で自治会に入れない 地域行事：今後小学校の盆踊り等に参加予定 現在の課題：ゴミの処分 今後の課題：積極的に地域内での交流の機会をつくりたい ボランティアへの期待：話し相手になって下さる方、いつでも気軽にきていただきたい	特になし（今後予定中）	職員教育、入居時の要件、入居者の要介護度の進行への対処、GH退去後の受け皿が不足。

＊今後の課題の内、調査番号1、4、7、8、14、15、16、17は無記入
＊「地域との関係」でまったく記入のない項目は表中から削除した。
＊表中、（網掛部分）自主イベント開催、今後地域との交流を検討中、併設施設で主催する地域行事あり。

8　日常生活における地域との交流状況

1～7までの質問紙調査項目の整理から、日常的な生活の様子やイベント的な外出機会のあり方が、GHと地域の関係に大きく関わっていることが予測される。そこで、ここでは、調査項目「入居者の生活の様子」と「地域との関わり」の中から、日毎・週毎の日常生活における外出機会と、周辺地域住民との挨拶や立ち寄り等の交流の状況について分析を加えていきたい。(表11参照)

8-1　GH敷地外部での地域住民らとの日常的接触

GH周辺の「散歩」外出を日課としているGHは12件あり、その際にすれ違った近隣住民らとの挨拶等があるものが5件と、最も日常的接触の機会が多かった。(ただし、同じ散歩でもGHおよび併設施設の敷地内を散歩するというGH3件については、12件の中には含めない。)

表11　日常生活における入居者の外出機会と地域との交流状況

調査番号	開設年数	運営主体	日常生活における外出機会等								
			散歩	買物	外食	娯楽	医療	敷地内	立寄	自治会	回答要点
1	4	社	○	○	○	○				－	－
2	1	社	●	○	○	○		○		－	散歩挨拶。
3	1	社	●	○			○			－	散歩挨拶。
4	1	社		○	○			○		－	－
5	4	医		○				○		－	－
6	2	医						○		－	－
7	3	医		●	○	○	○	○		×	買物時
8	1	株	●	●						－	散歩中、クリーニング
9	1	有		○	○	○		○	●	－	GH訪問
10	2	有		○	○	○		●	●	●	挨拶、お裾分け、立寄
11	3	NPO	●	○				○	●	●	挨拶、野菜を頂く、立寄
12	0	社	○	○						×	特に無し
13	0	社		○	○					×	－
14	0	社	○	○			○			－	－
15	0	医	○	●		○		○		－	近隣商店でなじみの関係
16	0	医	○					○		×	－
17	0	株	●	○				○		×	散歩挨拶
18	0	株	○							●	－
19	0	有	○	○			○		●	×	立寄
合計件数			12(5)	16(3)	7	6	4	11(1)	4(4)	3	

○：外出機会がある。●：外出した際に地域住民との接触がある。空欄：外出機会がない。
開設年数：開設してからの年数（0：1年未満、1：1年以上2年未満、2：2年以上3年未満、以下同）
運営主体：運営主体種別（社：社会福祉法人、医：医療法人、株：株式会社、有：有限会社、NPO：NPO法人）
自治会加入：加入●、加入せず×、無回答：－、合計件数：全体合計（交流がある件数）

次に近隣のスーパーなどへの「買物」外出を日課あるいは週に 2、3 回の頻度で行っているGH は 16 件あり、その際の近隣や商店での挨拶等があるもの 3 件が多かった。また、外食・娯楽（ドライブ等）・医療機関への日常的な通院などは、地域との接触機会としては働いていない。

特定の目的なく GH 周辺を歩く「散歩」はお互いに声をかけやすく、それに対して「買物」は車を使用するケースが多いために、目的地である店頭での接触に限定される。また、外食等の特定目的の外出も車を用いるために近隣との接触にはつながっていないと考えられる。

「散歩」を日常的に実施しているにも関わらず近隣住民との接触がない 7 件の内 6 件は、開設 1 年未満であり、まだ周辺との関係が成熟していないと考えられる。開設年数はかなり経過しているが日常的な交流がない 1 件については、その理由はアンケートの回答からは不明であるが、散歩する周辺地域に住民が少ないなど、別の視点からの調査が必要である。

8-2　GH 敷地内での地域住民らとの日常的接触

GH によっては同一敷地内に併設施設がある等かなり広い敷地があり、敷地内を自由に「散歩」できるもの 3 件（4、5、6）、家庭菜園的な庭があり日常的に手入れ等をしているもの 4 件（7、11、16、17）があり、日常的に GH 建物の外に出ているが、これらは地域との接触機会としては働いていない。しかし、これら以外で 1 件「庭で声をかける」との回答があった。敷地内の庭等に日常的に出るかどうかという生活状況よりも、庭部分の外部との物理的な関係や周辺の住宅密度や近隣コミュニティの状況等、別の視点からの調査が必要である。

また、GH に地域住民の方から「お茶、遊びにくる、お裾わけ、野菜をいただく」など一歩踏み込んだ近隣同士としての交流があるものは 4 件だが、それぞれ開設後の経過年数は 0、1、2、3 年と分散しており、年数を経れば近隣としての関係が成熟していくというものではないと考えられる。この 4 件の運営主体は有限会社 3 件と NPO1 件であり、近隣同士としての交流には、近隣コミュニティのあり方以外に、運営主体の種別が関係している可能性がある。

8-3　小結

以上をまとめると、日常的な交流の多くの部分は、計画的にではなく偶然のように「出会う」という要因によって形成されており、日常生活の中で GH の敷地の外に物理的に出るという行為自体から始まっていることが分かった。

その他、「開設年数」は交流の成熟という観点からは重要であるが決定的な要因ではない

こと、近隣のコミュニティの状況や、周辺の人家の分布や商店の分布等の立地条件、さらには運営主体の種別などが、日常的交流状況に関連している可能性があると考えられる。

9　行事を中心に見た地域との交流状況

質問紙調査項目「入居者の生活の様子」と「地域との関わり」の中から、月間～年間における外出機会と、周辺地域における行事への参加状況やGHからの行事等の地域への働きかけ、地域資源の活用・GHを訪問する団体の状況について、表12にまとめた。

9-1　地域の行事・祭への参加

地域の行事等への参加には、まず開設年数の1年以上のもの6件（11件中、54.5％）、開設年数1年未満のもの2件（8件中、25％）と大きな違いが出た。これは開設年数が長

表12　行事・祭り等への参加状況と地域との交流

Z	開設年数	運営主体	地域の行事・祭				法人主催行事		併設施設内行事	地域資源活用	訪問団体
			総合	自治会	学校	地元	併設	GH			
1	4	社	●	○			●		○		●
2	1	社	●	○	○						
3	1	社	●		○	○					
4	1	社	●		○						
5	4	医							○		
6	2	医							○		●
7	3	医	▲			△	●		○	●	
8	1	株						●		●	
9	1	有	●			○				●	●
10	2	有	●	○							
11	3	NPO						●		●	●
12	0	社									
13	0	社	●		○					●	●
14	0	社	●		○	○	●		○		●
15	0	医									
16	0	医									
17	0	株									
18	0	株								●	●
19	0	有								●	
合計件数			8	(3)	(5)	(4)	3	2	5	7	7

地域の行事・祭：参加のあるもの●（内訳：自治会、学校関係、地元など開催主体別に参加のあるものを○で示した。）
＊△、▲は祭り関連場所提供：GHから地域に出ていくものではないため、○、●とは表記を変えた。
法人主催行事：運営法人が主催する地域住民ら外部者を招くバザーなどの行事のあるもの●
併設施設内行事：併設施設の内部での行事へのGHからの参加があるもの　○
地域資源の活用：福祉バス・公共施設・移動美容車・高齢者割引施設・福祉関連施設などを活用しているもの●
訪問団体：ボランティア団体・小中学生・研修生などの訪問のあるもの●

くなるにつれて、地域の側にGHに対する理解が進み、GHを受け入れる態勢ができていくなどの関係が築かれていくこと、またはGH側に地域行事に参加するだけのゆとりができることなどが考えられる。

さらに、参加実績のある8件の内、6件は運営主体が社会福祉法人、残り2件が有限会社であり、医療法人については表中（▲）表記の「場所提供」を除けば、開設年数に関わりなく0件と、ここでも運営主体別に大きな違いがあることが分かった。

9-2　GH運営主体による主催行事

また、運営主体となっている法人側が地域に参加を呼びかける行事などでは、特別養護老人ホーム等の併設施設で主催しGHもそこに参加するものと、GH自体が開催主体となってバザーなどを行い地域の人々に参加を呼びかけるものとの2種類に分かれる。施設の地域への開放という観点から見ると、併設施設の有無も地域との関係に関連している可能性がある。

9-3　小結

以上をまとめると、地域行事への参加等のイベント的な交流においては、行事への受け入れなど地域の人々のGHに対する認知の成熟に開設後の経過年数が関係していること、行事への関わり方に運営主体の種別が大きく関与していることが抽出できた。また、併設施設の有無も影響を与えている可能性が高い。地域資源の活用や外部団体との関係を見ていくには、サービスや団体の種類に踏み込んだ調査が必要になると思われる。

Ⅳ　まとめ

8、9より、「日常的交流」と、行事・お祭り等の「イベント的交流」の相関関係を以下の表13にまとめ、GHにおける地域との交流状況を総合的に把握できるようにした。日常的な交流としては、「特になし」、散歩などの外出時にすれ違って「挨拶程度」、また立ち寄り等の「近隣としての相互交流」があるものに分類した。ただし、「立寄」だけに注目すると、特定個人の訪問等に偏向する可能性があるため、外出の際の「挨拶」など交流の幅の広いものをあわせ持つ「立寄＋挨拶」と分け、全部で4段階に分けた。また、行事や祭り等のイベント的交流については、「特になし」、「地域の行事への参加」のあるもの、GH主催の行事に地域の参加を求める「GHで主催」に分類した。さらに、地域の行事に参加のうち、外部の主催行事に「参加のみ」しているものと、「併設施設で主催」している地域行事に参加しているものを分けた。

作表にあたっては、日常的交流は左に行くほど・イベント的交流は上に行くほど積極的

表13　GHにおける日常的交流とイベント的交流の相関

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="3"></th><th colspan="4">日　常　的　交　流</th></tr>
<tr><th colspan="2">近隣としての相互交流</th><th rowspan="2">挨拶程度の交流</th><th rowspan="2">特 に な し</th></tr>
<tr><th>挨拶＋立寄</th><th>立　寄</th></tr>
<tr><td rowspan="5">イベント的交流</td><td colspan="2">G H で 主 催</td><td>11（NPO、3）</td><td></td><td>＊8（株、1）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">地域行事への参加</td><td>併設施設で主催</td><td></td><td>9（有、1）</td><td>＊7（医、3）</td><td>1（社、4）
14（社、2）</td></tr>
<tr><td>参 加 の み</td><td>10（有、2）</td><td>19（有、0）</td><td>＊2（社、1）
＊3（社、1）</td><td>＊4（社、1）
13（社、0）
18（株、0）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">特 に な し</td><td rowspan="2"></td><td></td><td></td><td>＊5（医、4）
＊6（医、2）</td></tr>
<tr><td></td><td>15（医、0）
17（株、0）</td><td>12（社、0）
16（医、0）</td></tr>
</table>

＊表記は、調査番号（運営主体、開設後経過年数）。また、開設年数が1年未満のものについては、網をかけている。
また、開設1年以上のもので先頭に「＊」マークのあるものは、併設施設の存在を示す。
社：社会福祉法人、医：医療法人、株：株式会社、有：有限会社、NPO：NPO法人

であるようにアレンジしている。したがって、表中の左上が、地域との交流にもっとも積極的なブロック、右下が慎重なブロックということになる。ただし、各ブロック内での調査対象の配列は番号順であり、交流に対して慎重か積極的かということとは無関係である。

表13を運営主体別に見ると、「有限会社」と「NPO」は、開設年数に関わらず日常的交流に積極的な傾向があるが、イベント的な交流においてはむしろ開設年数が長いほど積極的になる傾向がある。医療法人においては（ひとつの例外＊を除いて）日常的交流にもイベント的交流にも比較的交流に慎重な傾向が見られる。社会福祉法人においては日常的交流よりもイベント的交流に積極的な傾向が見られる。運営主体の種別が地域との交流において大きな要素となっている。（＊医療法人の中でもっとも積極的な調査番号7については、独自に広報誌を作成し、地域に配付する等の努力・意欲が交流を促進していると思われる）

補足として、今回の調査項目の「今後の課題」から、地域との交流に関する回答内容を回答数の多かった順に並べ、運営主体別にまとめた表14を下に付す。サンプル数が少な

表14　運営主体別に見た「今後の課題」

運 営 主 体	気 楽 な 交 流	GH・痴呆への理解	地域行事への参加	自主イベント開催
社 会 福 祉 法 人	5	1	2	0
医 療 法 人	1	3	2	0
株 式 会 社	1	0	1	1
有 限 会 社	2	1	0	0
N P O 法 人	1	0	0	1
合 計 件 数	10	5	5	2

＊ここでは、今後の課題としてあげられたうちの地域との交流に関連する部分のみを抽出している。

いので断定的なことは言えないが、表 13 をみる限りでは日常的交流には慎重な傾向を示していた社会福祉法人 7 件のうち 5 件が、「日常的で気楽な交流」を今後の課題としているということは、交流に積極的な気持ちがあるにも関わらずその実現には困難があるという状況を示しているのではないか。また、医療法人では日常的な交流よりも GH や痴呆に対する理解を求めるものが多く、地域との交流に対する慎重な姿勢がここにも伺える。

また、開設年数が地域との関係の成熟という意味でひとつの要素であることは（1）（2）でも既述したが、特にイベント的交流への積極性や日常的交流における GH の認知度に関係している。開設 1 年未満の GH については、今後の交流がどういう方向で成熟していくか未定の要素が含まれており、検討の俎上から外した方がよいと思われる。

しかし、一方で、日常的交流においては、必ずしも開設年数が長くなるほど成熟していくものではないことも同時に指摘できる。特に開設年数の長い医療法人や社会福祉法人において、日常的な交流がないことは、地域との交流に対する基本的な姿勢や、希望していても実現できない状況などが関係している可能性についての検討が今後の課題となるであろう。

以上より、GH と地域との交流状況を考えていく上では、開設年数の他、運営主体種別と運営側の姿勢、併設施設の有無、GH の周辺に物理的にどのくらいの宅地や公共サービス・商店等があるのかといった「立地条件」、自治会等の近隣コミュニティの状況（日常的交流に最も積極的な 2 件は自治会に加入している）への配慮、など多角的な視点が必要であると思われる。

質問紙調査における「入居者の生活の様子」と「地域との関わり」は、いずれも記述式回答形式をとっており、交流の「程度」表現のデリケートなニュアンスを無視するかたちで分析を行っている。また、ニュアンスの解釈においても、記述者に直接記述内容の確認をしていないため、分析側の恣意性が入り込む可能性を排除しきれないことから、量的な検証はしていない。したがって、この質問紙調査の結果分析と考察はいずれも仮説的なものであり、この後に実施した現地状況の確認とヒアリングを含むより精度の高い第 2 次調査において検証を試みている[4]。

V　おわりに

今回の調査では、運営主体の種別によって入居者の生活状況や、地域との交流に対する姿勢が微妙に異なっている可能性を示唆することができた。どうしてそのような差異が発生するのか、あるいは栃木県以外でも見られる傾向なのかといった検証が今後の課題となるであろう。

痴呆高齢者介護の切り札として大きな期待を背負いながら、新しい制度に取り組んでいらっしゃる多忙な現場から、複数の自由記述式項目を含む煩雑なアンケートに真摯な回答を寄せて下さった各グループホームの方々に心から御礼申し上げます。

なお、本研究は、2003（平成15）年度岡野研究奨励補助金の交付を受けて実施されたものである。

参考文献

1　小笠原裕次編，バルブロ・ベック＝フリス，友子・ハンソン著『今，なぜ痴呆症にグループホームか』筒井書房，2002年
2　厚生労働省HP「介護サービス施設・事業所調査の概況」より．
http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/kaigo03/gaiyo.html
3　ヒアリング調査の結果については，同じく今年度の共栄学園短期大学紀要に「痴呆性高齢者グループホームと地域との交流に関する現状と課題」（柊崎，六反田，新井）としてまとめている．
4　前出.